

## 「昭和の夏休み」

## ～ 生活習慣の確立は 生活の見通し① へとつながる

子どもの頃の夏休みと言えば、“ラジオ体操”を思い出す。  
一週間程、田舎の従兄弟の家に泊まりに行き、ないと思っていたラジオ体操があった。  
しかし、一日の流れはこれに参加する事で決定された。

つまり、早起き、洗面、体操、おいしい朝食、宿題ドリル、学校のプール、カレーライス、チューリップ型ガラス器のかき氷、タイマー付き扇風機の昼寝、読書、子ども会のソフトボールの練習、蟬取り、腹が減って夕食、水玉タイルの風呂、勉強、TV、寝床での幽霊の話、蚊帳をつるしての就寝 と…。

生活の流れが一定であると、人は「次は、これをする」と見通しを持つ事が出来て心が落ち着く。

————— \* ————— \* ————— \* —————

しかし、年齢が幼くなる程、些細な大人の都合でこの見通しがつかなくなり混乱。

例えば、

- ・朝起きて「トイレに行って顔を洗う」のか？「顔を洗ってトイレに行くのか？」  
子どもは今日はトイレが先だったから、明日トイレを先に行こうとして、明日になると、母から「顔洗わなあかんやろ！」と言われ、朝起きると何を先にしていかわからなくなり、結局母に怒鳴られなければできなくなったり…。
- ・「水あそび」など、その日の大人の都合ですと、次又、いつできるか見通しが立たないので、子どもは「いやや、もっとしたい」と駄々をこねる。  
しかし、一定の時間、順番で必ず又できると見通しがついていれば「又明日あそぼう」と納得。 等。

————— \* ————— \* ————— \* —————

田舎の従兄弟の家での昭和の夏休みは、シンプルながらわかりやすい生活の流れが確立していた。

子どもが、生活に見通しを持つ事ができた。

だから、一々大人に怒鳴られず行動していた。元気でやんちゃだが、心に落ち着きがあり、興味に集中力が宿った…。

- ・ミンミン蟬とクマ蟬のつかまえ方の違い？（高い所、低い所）
- ・クワガタ虫のつかまえ方？（早朝時間の加減がポイント）
- ・上杉謙信がなぜ敵に塩を送ったのか？（義か？利か？）
- ・分数と小数の早い計算方法。そろばんの指の練習方法（極秘）
- ・ソフトボールの作戦タイムは、注意したい本人のみ呼ばない（相手にばれる）
- ・スイカの種の取り易い切り方、奇数・偶数人での分け方 等。

（模様に沿って）                      （三角型・半月型）

決して学校では教えてもらえない事を、学び考えた夏であった。